

平和かみしばい「チンドンひまわり一座物語」

<あらすじ>

チンドン屋の夫婦が日々元気に街を歩いていた時代

ところが、戦争により仕事をできなくなった。

二人の子どもは、親の仕事をそもそも恥ずかしいと思っていた。

戦争の激化で、防空壕に度々入る日々。

そして、原爆。

偶然生き延びた家族

両親は、必死に傷ついた人を看病する。その姿に子ども達は、
普段の仕事を懸命に務める両親の姿を見る。

お父さんお母さんごめん

甚大な被害を長崎に落とした戦争が終わった。

チンドンの音は平和の象徴だと
ずっと平和を祈り、子ども達が立派な仕事としてチンドン屋を
受け継いでいく。(おしまい)

作 小川内清孝氏 絵 マルモトイツミ氏

